Press Letter

RECRUIT 株式会社リクルート

2021年8月31日

ミラキャリ通信 Vol.10

2021年8月発行

「転職」を考えている人は「副業」への関心も強い
副業が「転職」「キャリア」にもたらす効果

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：北村 吉弘）が提供するサービス『サンカク』では、正社員採用はもちろん、副業という新しい働き方も推進し、企業の事業成長に本当に必要な人材獲得を支援しています。例えば、人材不足にお悩みの地方企業に対して、副業による新しい働き方の定着や、リモートワークによる地方創生の推進など、既存の手法では獲得が難しい人材に対して今までにない切り口の人材獲得活動を支援しています。

一方で、新型コロナウイルス感染症の影響も受け、働く人にとっても今後のキャリアや働き方について“もやもや”を感じる方も増えてきたのではないでしょうか？『サンカク』ではそんなビジネスパーソンに対し、「一歩踏み出すきっかけをつくり、自分では気付かないキャリアの可能性を発見したり、自分にフィットした働き方を見つける」、そんな場を提供しています。

『サンカク』から「未来の人材獲得」や「未来の働き方」、「未来のキャリア」についてお届けするプレスレターが『ミラキャリ通信』です。

■ 『サンカク』の現場から　- Report from Sankak -

株式会社リクルート Division 統括本部　HR 本部　HR エージェント Division　ビジネスグロース部
『サンカク』グループ　責任者　古賀 敏幹

今回は「転職」と「副業」「社会人インターンシップ」の関係性についてお話しします。

『ミラキャリ通信』Vol.8（https://www.recruit.co.jp/talks/recruit_voice/2021/04/miracari8.html）でもご紹介したように、近年、「自己成長」を目的に副業に取り組む人が増えています。「転職」にしろ、「副業」「社会人インターンシップ」にしろ、キャリア構築の一手段。これらはまったくの別物ではなく、隣り合わせにあるものだと考えています。

直近３カ月以内に転職エージェントを利用して転職活動をしている人を対象に行った意識調査によると、「副業をしてみたいと思いますか。また、副業マッチングサービスを利用してみたいと思いますか」という問いに対し、6 割近くの人が、「興味がある／転職活動中でも、自分に合った副業を行う機会を紹介してもらえるなら利用したい」と回答しました。

「自身の経験を新たな場所で生かしたい」「新たな経験を積みたい」といったマインドを軸に、「転職」と「副業」は連鎖していると見てとれます。

Q１.あなたは副業をしてみたいと思いますか。また、副業マッチングサービスを利用してみたいと思いますか。当てはまるもの全てお選びください（対象：直近３カ月転職エージェント・斡旋サービスを利用した７４２人）

全体数７４２人／複数回答	%
副業に興味がある／転職活動中でも、自分に合った副業を行う機会を紹介してもらえるなら利用したい	58.1
副業に興味がある／転職活動中は考えられないが、活動が落ち着いたタイミングで、自分に合った副業を行う機会を紹介してもらえるなら利用したい	39.1
副業に興味がある／転職先候補の企業に対して、お試しとして副業できるなら利用したい	31.7
副業に興味がある／転職活動が本格化する前に、腕試しや経験を積むために副業できる機会があるなら利用したい	29.5
副業に興味がある／転職活動のタイミングに関わらず、自分に合った副業を行う機会を紹介してもらえるなら紹介してほしい	28.3
副業に興味がある／副業での実績が、転職活動での自身の経歴としてアピールできるなら利用したい	25.3
転職活動のタイミングに関わらず、副業に興味がない	10.1

出典：リクルート実施インターネット調査、直近３カ月転職エージェント・斡旋サービスを利用した人（n=７４２、2021 年）

転職活動者が副業に興味を抱く理由と、『サンカク』ユーザーが社会人インターンシップに期待することは、共通して「新たな経験や成長の機会」。

社会人インターンシップでは、インターンシップ参加後に、そのままインターンシップ先の企業にキャリアチェンジされる方も多くいらっしゃいます。

それ故、サービスを運営していると「転職するためにサービスに登録しているわけではないのに、どうして転職するのか？」「副業や社会人インターンシップに参加する人は転職するために参加しているのか？」といった質問をされることがしばしばあります。

そのたびに「副業や社会人インターンシップなど自身の成長や本業では得られない経験を得るための社外活動と、転職は大きく離れているものではなく、隣り合っているものなんです」と回答してきました。先ほどの調査データに加え、改めてそれを示唆するデータが得られましたのでご紹介致します。

Q1 で「転職活動を行っていて、かつ副業に興味がある」と回答した方に、副業に興味がある理由についてお聞きしたところ、半数以上の方が「現在の職場では得られない経験や成長の機会を得るため」と回答されました。

Q２．副業に興味がある理由として、当てはまるものを全てお選びください。（対象：直近３カ月転職エージェント・斡旋サービスを利用した７４２人のうち、副業に興味がある６６７人）

全体数６６７人／複数回答	%
現在の職場では得られない経験や成長の機会を得るため	54.7
本業での収入とは別にお小遣いや自由に使えるお金を得るため	48.1
現在の職場よりもキャリアアップになるような転職を実現するため	44.4
現在の職場以外でも活躍することができるのか確かめるため	44.2
現在の職場では得られない出会いや人脈を形成するため	43.9
現在の職場よりも自分に適した職場を見つけるため	38.4
本業での収入とは別に生活費の補填となる収入を得るため	38.2
自分自身の経験や知見を活用して貢献できる場を探しているため	31.5

出典：リクルート実施インターネット調査、直近３カ月転職エージェント・斡旋サービスを利用した７４２人のうち、副業に興味がある人（n=６６７、2021 年）

この志向は『サンカク』を利用されているユーザーさんの特徴と非常に近く、改めて「副業・社会人インターンシップ」と「転職」は隣り合わせであり、緩やかにつながっているものだと思いました。

『サンカク』では、在籍企業から離れた場所で、興味はあるけれど本業では経験するチャンスがない課題に取り組む。そこで、「自分は結構できる」「社外でも通用する」と自信を得たり、あるいは現時点の自分に足りないものに気付けたりします。

また、自社以外の事業テーマや価値観、あるいは働く人たちに触れることで、現職よりも自分にフィットするもの、ワクワクできるものを発見できるかもしれません。

興味を持った会社や仕事に対して、いきなり「転職」はハードルが高いけれど、まずはディスカッションからスタートし、「もっとやってみたい」「もっと深くつながりたい」と思えば副業へ発展させる。

そのステップを経ることで、最終的に転職を決断したり、あるいは自社の魅力を再認識して元の場所で頑張れたりと、複数の道を比較検討した上で今後の方向性を決断しやすくなります。

新たな分野にチャレンジする際のハードルを下げ、次のステップへ進む段差を緩やかにする。それが、新たなキャリアを模索する皆さんにとっての、『サンカク』の価値でありたいと考えています。

■ 『サンカク』な人図鑑　– Who join Sankak –

『サンカク』で得た気付きにより、キャリアチェンジを決意

実際、『サンカク』への参加を経て転職を成功させた方にお話を伺いました。

桐生 宜昭さん（30 歳） は、『サンカク』のイベントでの気付きによって今後のキャリアの方向性を定め、転職を果たされました。さらには、副業として『サンカク』の運営にも携わってくださっています。

そんな桐生さんに、副業が「キャリア」「転職」にもたらす効果を語っていただきました。

■お名前：桐生 宜昭（きりゅう よしあき） さん

■本 業（前職）：人材系ベンチャー企業の IT 担当

■本 業（転職後）：某外資系 IT 企業
クラウドサポートエンジニア

■『サンカク』活動開始時期：2020 年 2 月～

―― 『サンカク』への参加に至った経緯と、『サンカク』で得たものをお聞かせください。

新卒で入社したのは大手損害保険会社です。法人営業をしていましたが、労働環境や風土が合わず、約 30 人規模の人材系ベンチャー企業に転職しました。

当初は営業でしたが「自分には向いていない」と思い、自ら手を挙げて「エンジニアになります」と宣言。以来、IT 部門を一人で担当するようになりました。その会社に所属しながら、AI（人工知能）を手がける別の会社にも出向し、AI 開発プロダクトを手がけていました。

経験値を高めるために何か副業をしたいと考えていた頃、『サンカク』で AI 開発企業の社会人インターンシップイベントの募集を発見。「同業他社はどんなことをしているのか知りたい」という、純粋な興味から参加しました。

そのときのテーマは「機械学習モデルの効果的な運用方法について」のディスカッションでした。そのテーマに対し、僕は「いかに精度を高めるか」を想定していたのですが、その会社が課題意識を持っていたのは「運用手法」。「いかに学習モデルの処理スピードを上げられるか、いかに要件に合うような運用手法を可能とするか」が主眼だったのです。

これは大きな気付きになりました。それまではデータサイエンティストの道へ進みかけていたのですが、「そっちじゃないな」と。当時、周囲のデータサイエンティストを見ると、業務としては学習モデルの精度改善を主に行っていましたが、今から自分も同じことをやるのはあまり得策ではないと感じました。モデルの精度を高めるのはその方たちに任せ、これからは「運用」のニーズが高まると考え、運用する側のインフラ、中でも今後の主流になる「クラウド」分野でキャリアを築こうと決めたんです。それが自分の市場価値アップにつながると確信しました。

結果的に、2021 年 5 月、クラウドサービスの有力企業に転職を果たしました。

―― 転職前には、「副業」も経験されていますね。副業のメリットは、どんな点にあると思われますか？

『サンカク』の体験が面白かったので、パートナー制度に応募し、「サンカク副業社員」※としての活動も始めました。

※サンカク副業社員：『サンカク』会員の中で、『サンカク』のビジョン・ミッションに共感し、単なるユーザーとしてだけでなく運営の主体者として関わりたいと希望された方を対象に、副業という形式で『サンカク』の運営に関わることができる仕組みです。主に『サンカク』のメインコンテンツである社会人インターンシップのプログラムについて、株式会社リクルートの社員および『サンカク』を導入する 企業と協働しながら実現する役割を担っていただいています。

副業をするメリットとして感じていることは、

●他社のカルチャーを知れる

●本業とは異なる「頭の使い方」を経験できる

●本業では接する機会がない人たちと接し、新鮮な刺激を得られる

●本業以外の職種経験を通じ、自分の適性を知れる

●「案外自分って他社でも通用するじゃん」と、自信が付く

●「本業以外でお金を稼ぐことができた」と、自信が付く

総じて「自信を得た」と言えますが、その自信は転職活動の後押しになりました。

転職を考え始めた頃、自信がある部分とない部分、半々だったんです。エンジニアへのキャリアチェンジを決意し、独学で知識・スキルを身に付けてきたことに関しては自信を持っていた。でも、活動範囲は小規模ベンチャー内にとどまり、やってきたことのスケールは小さいし、社会的ステータスもない。

自分の市場価値はどう評価されるのだろう……と不安がありました。

けれど、副業に踏み出したことで、自分のスキルが社外で認められ、報酬を得られるだけの価値があるとわかりました。「どこかは採用してくれるだろう」と楽観的になれましたね。

面接でも、一つの会社・仕事にとどまらず、向上心を持って外の世界にチャレンジしたことを、堂々とプレゼンできました。

――　希望通りの企業に転職し、新たなスタートを切られたばかりですが、今後も副業を続けますか？

続けていきたいです。本業ではできない経験を積むことで、そこで身に付けた力を本業に生かしたいと思います。例えば、「企画する」「チームをまとめる」「後輩を育成する」など。

それに、副業は視野を広げ、将来の選択肢を増やしてくれるものだと捉えています。

僕はよく言えば「柔軟性がある」、言い方を変えると「こだわりがない」。変化していくことが好きなタイプです。その時代時代に合わせて働き方やキャリアを選び、うまく波に乗って生きていきたい。

だから、副業を「トレンドをキャッチするアンテナ」として、時には「逃げ道」「リスク分散手段」として活用していきたいと思います。

――　副業しようかどうか迷っている皆さんにも、メッセージをお願いします。

とりあえずやってみてください。自分もそうでしたが「何だか面白そう」から、気軽に手を出してみればいいと思います。

気軽に手を出すためにも、“暇”になることが重要だと感じます。人間、追い詰められていると視野が狭くなり、そんなタイミングでは掴み取れるチャンスも掴めなくなると思います。だからこそ、意識的に“暇”な時間を確保してあげることが第一歩だと感じます。僕もこれまで副業的な活動にいろいろと手を出して、うまくいかなかったものも多いけれど、気にしていません。失敗しても、副業であれば痛みはない。本業もあるし、副業も「次」があるのですから。

適性なんて、やってみるうちに見つかるものなので、まずは一歩踏み出してみるといいと思います。

――　桐生さん、ありがとうございました。

桐生さんのように、さまざまなメリットを感じて副業へ踏み出す方が増えています。

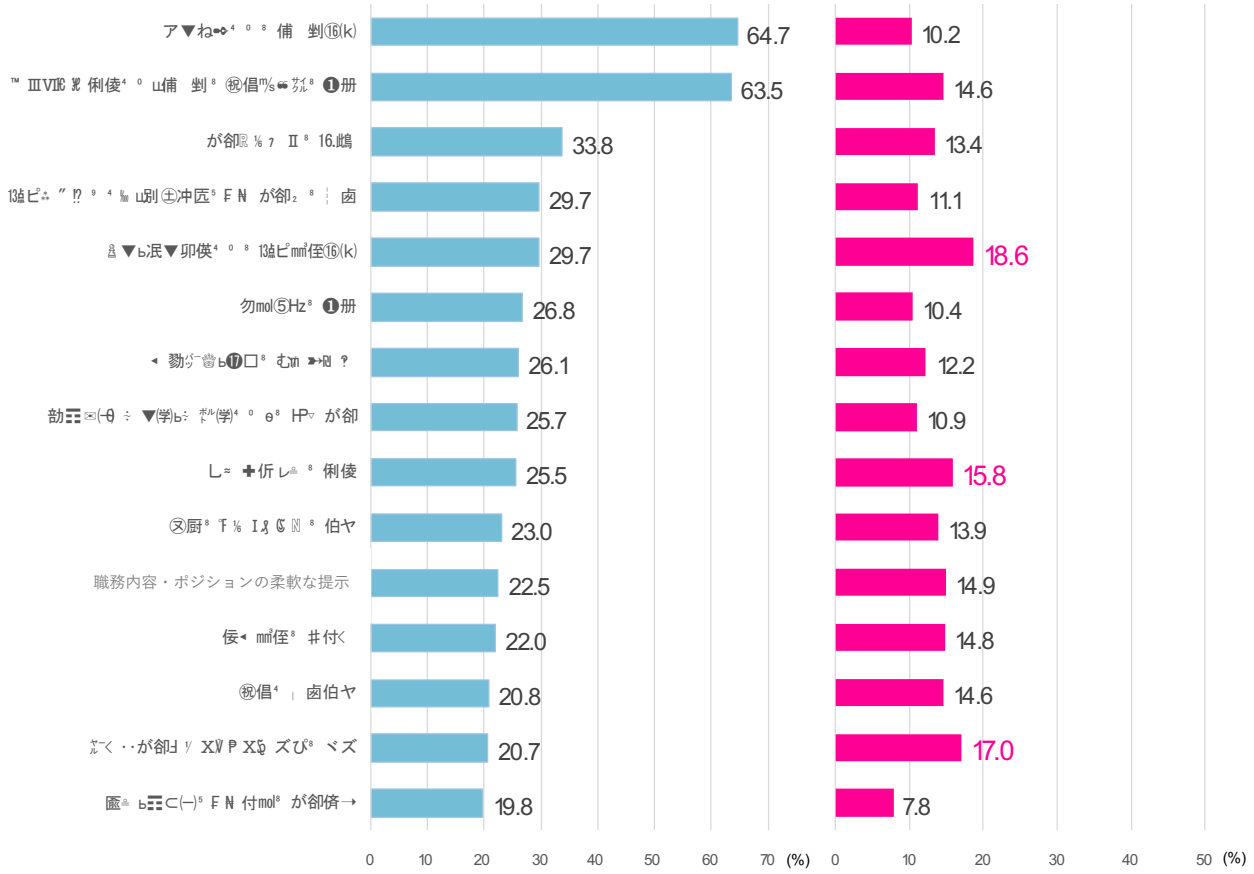
一方の企業側の動向はどうなのでしょうか。リクルートが実施した「2021 年度の中途採用計画」の調査からみると、半数以上の企業が 2021 年度に新しい取り組みを計画しており、その中で「兼業・副業容認などの人事制度改革」が 18.6％と最も多いことが分かりました。

企業側の動向からも副業へのチャンスは広がっていきそうです。

Q.中途採用の計画を目的として行った取り組みについて教えてください

図左　過去に一度でも取り組んだことがあるもの（複数回答　n=958）

図右　2021 年度以降新たに開始を検討したい取り組み（３つまで　n=576）



（出典：リクルート「2021 年度の中途採用計画」
https://www.recruit.co.jp/newsroom/pressrelease/assets/20210531_hr_01.pdf）

■『ミラキャリ通信』バックナンバー

●【2021 年 6 月 17 日（木）】『ミラキャリ通信』Vol.9 「社会人インターンシップ」希望の地方在住ビジネスパーソン３倍以上に増加　首都圏から全国での「副業」チャンスが拡大中	https://www.recruit.co.jp/talks/recruit_voice/2021/06/miracari9.html
●【2021 年 4 月 26 日（月）】『ミラキャリ通信』Vol.8 「自己成長」を目的とした兼業・副業が増加―兼業・副業人材を活用したい企業が取り組むべきこと	https://www.recruit.co.jp/talks/recruit_voice/2021/04/miracari8.html
●【2021 年 3 月 12 日（金）】『ミラキャリ通信』Vol.7 製造業における「DX」の課題とは―成功している企業の事例を紹介	https://www.recruit.co.jp/newsroom/recruitcareer/news/information/2021/210312-01/
●【2021 年 2 月 24 日（水）】『ミラキャリ通信』Vol.6	https://www.recruit.co.jp/newsroom/recruitcareer/new

「テレワーク」の導入で地方でも新しい働き方の推進を	s/information/2021/210224-01/
●【2020 年 11 月 27 日（金）】『ミラキャリ通信』特別編集「ふるさと副業」への取り組みが加速中―新型コロナウイルス禍により「テレワーク定着」が追い風に	https://www.recruit.co.jp/newsroom/recruitcareer/news/information/2020/201127-01/
●【2020 年 10 月 22 日（木）】『ミラキャリ通信』Vol.5 今注目される「DX」。しっかりと理解するために知っておくべきこと	https://www.recruit.co.jp/newsroom/recruitcareer/news/information/2020/201022-01/
●【2020 年 9 月 18 日（金）】『ミラキャリ通信』Vol. 4 「ビジョン・ミッション・バリュー」の策定でコミュニティー全体の道しるべに	https://www.recruit.co.jp/newsroom/recruitcareer/news/information/2020/200918-02/
●【2020 年 8 月 13 日（木）】『ミラキャリ通信』Vol. 3 本業とは異なる機会だからこそ副業では「自分の興味」を優先に	https://www.recruit.co.jp/newsroom/recruitcareer/news/information/2020/200813-01/
●【2020 年 7 月 2 日（木）】『ミラキャリ通信』Vol. 2 「カスタマーファースト」でコミュニティーの進化を	https://www.recruit.co.jp/newsroom/recruitcareer/news/information/2020/200702-01/
●【2020 年 6 月 2 日（火）】『ミラキャリ通信』Vol. 1 今だからこそ挑戦したい「オンラインディスカッション」	https://www.recruit.co.jp/newsroom/recruitcareer/news/information/2020/200602-01/

本件に関する お問い合わせ先	https://www.recruit.co.jp/support/form/

リクルートグループについて

1960 年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人一人のライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HR テクノロジー、メディア&ソリューション、人材派遣の 3 事業を軸に、4 万 6,000 人以上の従業員とともに、60 を超える国・地域で事業を展開しています。2020 年度の売上収益は 2 兆 2,693 億円、海外売上比率は約 45%になります。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人一人が輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。
リクルートグループ：https://recruit-holdings.co.jp/　　リクルート：https://www.recruit.co.jp/